



ふるさとの自然

15

森の夜を生きる アオバズク

初夏の夜、どこからともなく聞こえてくる「ホッホッ、ホッホッ」という声。声の主はアオバズクです。

●青葉のころに渡来

アオバズクはハトぐらいの大きさのフクロウの仲間で、春に東南アジア方面から日本に渡ってきます。ちょうど青葉の季節に姿を見せるので、アオバズクという名前が付いたのでしょう。くりっとした金色の眼が印象的で「ホッホッ、ホッホッ」と二声ずつ鳴く声が特徴です。「ずく」「ほーほーどり」などとも呼ばれています。

●木のうろがマイホーム

渡ってきたアオバズクは、神社やお寺、屋敷林などの木のうろに巣を作ります。巣といってもワラなどを敷くわけではなく、うろの底に直接卵を産み落とします。巣作りに適したうろのある木は限られているので、毎年同じ木を使うことも多いようです。

●子育ては夜に

アオバズクは昼間は天敵のカラスなどに見つからないよう、枝の影に隠れてじっと休んでいます。メスが卵を温めている間、オスは近くの枝で見張りをしています。

暗くなると活動を開始し、ガなどの昆虫、カエル、小鳥、コウモリなどを捕まえて、ひなに運びます。ちなみに、夜行性のアオバズクですが、昼間も眼はよく見えています。

●体の大きなフクロウも

市内にはアオバズクのほかに、もう一種類、体の大きな「フクロウ」も住んでいます。フクロウはよくとおる低音で「ゴロスケホッホー」と鳴きます。

愛らしい表情で昔から人々に親しまれているアオバズクやフクロウですが、近ごろはどちらも数が減り、市内では鳴き声があまり聞かれなくなっていました。

(齊藤敏一)

イキイキ

あさひっ子



たいが
大雅ちゃん

平成21年10月31日生
両親＝崎山太徳さん
梓さん(江ヶ崎)

「ぼくミニトマトの箱詰めできるんだ♡凄いでしょ♡」

ここみ
心美ちゃん

平成21年11月3日生
両親＝吉田博茂さん
怜子さん(蛇園)

「もうすぐ私もお姉ちゃん♡赤ちゃんと早く遊びたいなあ!!」



そう
蒼ちゃん

平成21年11月14日生
両親＝大川航さん
睦美さん(江ヶ崎)

「ぼく、トラックと動物が、だあ〜いすき♪」



“イキイキあさひっ子”を大募集

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595 旭市二の1920・☎62-8070)へ。

対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課にあります。

編集こぼれ話

「メタボかぁ〜」と下を向くと、そこには球体?ではなく、最近丸みを帯びてきたおなか……。気になるので、鏡の前でチェック。横から見ると、ぽっこり出ているのが分かります。しばし眺めた後、なぜだか手でさすってしまいます。試しにたたいてみたら「ポンッ!」という鼓のような音。なかなかの音色に、思わず合いの手を入れたくなります(ふざけていませんよ)。メタボは、腹囲だけでは判断しないそうですが、4ページにあるよう、ドミノを倒さないためにも、生活習慣の改善を心掛けたいです。(Y)

くらしのカレンダー

- 1日(水) 人権擁護委員の日、水道週間(〜7日(火))
- 4日(土) 小学校運動会(矢指小・共和小)、歯の衛生週間(〜10日(金))
- 15日(水) 県民の日
- 19日(日) 父の日